

国際シンポジウム「アジアにおける日本学の現状」が開催されました。

去る3月9日（金）、静岡市内のクーポール会館において、国際シンポジウム「アジアにおける日本学の現状」Current Trends in Japan Studies in Asia（人文社会科学部／国際日本学センター・アジア研究センター主催）が開催されました。これは平成28年度に開始された「国際日本学」副専攻教育プログラムの研究面への拡大を目指して企画されたもので、シンガポール、台湾、ベトナム、タイの四ヶ国から第一線で活躍されている日本研究者をお招きし、各国の日本学および日本語日本文化教育の歴史・現状・未来についてお話し頂きました。それぞれの発表後はフロアから盛んに質問が寄せられ、終了後の懇親会も含め、研究交流の新たな発展に対する熱い期待が寄せられました。

発表者と発表タイトルは以下の通りです。

1. ティモシー・エイモス (Timothy Amos) (シンガポール国立大学)
“The Historical Trajectory of Japanese Studies in Singapore”
（「シンガポールにおける日本研究の歴史的軌跡」）（英語による発表・要約通訳あり）
2. 趙 順文 (TIO SunBun) (台湾／開南大学)
「開南大学での日本姉妹校交流への取り組みについて」
3. ブイ・ディン・タン (BUI DINH THANG) (ベトナム／ハノイ国家大学外国語大学)
「2010年代におけるベトナムの対内直接投資と日本の位置づけ」
4. キティ・プラサートスック (Kitti Prasirtsuk) (タイ／タマサート大学)
“Japanese Studies in Thailand: Status and Prospect”
（「タイにおける日本研究：現状と展望」）（英語による発表・要約通訳あり）

*通訳：伊藤素子

